

2020年3月1日

教学事務部学生支援センター杉並グループ  
教学事務部学生支援センター相模原グループ

パリ「国際芸術都市」・ミラノ「ブレラ国立美術学院」・  
ベルリン「クンストラウム・クロイツベルク/ベタニエン」等出張報告書

1期日 2019年6月16日(日)～24日(月)

2場所 フランス/パリ市 イタリア/ミラノ市 ドイツ/ベルリン市

3出張の主な目的

パリ：女子美とパリ「国際芸術都市」との交流20年を記念して開催する展覧会

「FUTURE MYTHOLOGY DIARIES—女子美術大学 × Cité Internationale des Arts  
20周年記念展—」(オープニングレセプション含む)の準備・実施及び「国際芸術都市」  
との今後の派遣等についての情報交換と視察

ミラノ：ブレラ国立美術学院の教員との情報交換とブレラ国立美術学院視察・  
女子美ミラノ賞受賞者滞在用アパート視察

ベルリン：クンストラウム・クロイツベルク/ベタニエンのレジデンススタッフとの情報  
交換とクンストラウム・クロイツベルク/ベタニエン視察

#### 4スケジュール

2019年

6月16日日曜	22時55分	羽田空港発
17日月曜	04時35分	パリ空港着
	10時00分	「国際芸術都市」にて女子美卒業生で本展覧会 コーディネーターと面会、 展覧会機材搬入、展覧会の映像コーナーと 女子美紹介コーナー設営、ギャラリー会場、 住居兼アトリエ見学
	18時15分	終了
18日火曜	10時00分	「国際芸術都市」にて展覧会の映像コーナーと 女子美紹介コーナー設営、住居兼アトリエ、版画工房見学
	20時00分	終了

19日水曜 10時30分 「国際芸術都市」にて展覧会開催に向け最終チェック、地下展示施設見学

12時00分 展覧会設営終了、展覧会オープニングレセプション準備

18時00分 展覧会オープニングレセプション実施  
「国際芸術都市」アリオ理事長他挨拶

21時00分 展覧会オープニングレセプション終了

21時30分 展覧会出展者であるパリ近隣在住女子美卒業生  
とレストランにて情報交換会

23時30分 終了

20日木曜 09時30分 「国際芸術都市」涉外スタッフと情報交換

12時30分 オープニングレセプション片付け終了

14時00分 展覧会公開開始を見届け、パリ空港へ移動

18時20分 パリ空港発

19時45分 ミラノ空港着

21日金曜 09時00分 ブレラ国立美術学院の教員と面会  
大学院生と卒業生の同学院への派遣について情報交換

09時30分 ミラノ賞受賞者用アパート視察

11時00分 ブレラ国立美術学院施設見学・同学院国際関係事務局訪問

13時00分 ブレラ絵画館視察

14時00分 終了、昼食後ミラノ空港へ移動

18時40分 ミラノ空港発

19時55分 フランクフルト空港着

21時15分 フランクフルト空港発

22時25分 ベルリン空港着

22日土曜 12時15分 ベルリン在住女子美卒業生面会

13時00分 トキヨーアーツアンドスペースレジデンツ  
面会・住居兼スタジオ見学

14時00分 ベタニエンレジデンススタッフと情報交換  
ベタニエン見学

15時00分 画材店・市場及び  
アーティスト・イン・レジデンス  
GLOGAUAIR(グローガウエア)のオープンスタジオ視察  
及び

16時30分 ハンブルク在住女子美卒業生面会  
スタジオ KREATIVSTADT WEISENBEE  
(クリエイティブシュタット ヴァイセンゼー)

## European creative city 視察

23時00分 終了  
23日日曜 14時15分 ベルリン在住女子美卒業生面会、ベルリン市内見学、  
レストランにて情報交換会  
20時35分 ベルリン空港発  
22時20分 パリ空港着  
23時25分 パリ空港発  
24日月曜 18時25分 羽田空港着

### 5 各都市別の報告

#### パリ「国際芸術都市」展覧会準備・実施・情報交換・視察

学校法人 女子美術大学の創立 120 周年記念事業の一つとして、パリ「国際芸術都市」(シテ・アンテルナショナル・デ・ザール)との交流 20 周年を記念する展覧会「FUTURE MYTHOLOGY DIARIES —女子美術大学 × Cité Internationale des Arts 20 周年記念展—」が 2019 年 6 月 20 日(木)より 7 月 13 日(土)の期間、シテ・アンテルナショナル・デ・ザールのギャラリーで開催されました。「国際芸術都市」はフランス文化省とパリ市により設立されパリ市より土地を提供され運営されています。

さて、「国際芸術都市」にて展覧会準備を開始するとギャラリーに向かう外廊下沿いにはポスターが掲出されていました。パリでのコーディネーターは女子美パリ賞の元受賞者でパリ在住の卒業生で、このポスターも同卒業生のデザインです。ポスターの掲出他様々な準備を先行して行って下さっていました。ギャラリー入口には展覧会看板、福下雄二理事長の英語による挨拶が準備されました。フランスでは展覧会においてはお世話になった方へきちんと謝意を表明するということで「国際芸術都市」と女子美の関係者への謝辞ポスターも会場に掲出しました。実際、本当に様々な方のお世話になりました。「国際芸術都市」の Bénédicte Alliot(ベネディクト・アリオ)理事長を始め、ギャラリー担当のカルチュアル プログラム マネージャー、ホームページ等広報担当でコミュニケーション マネージャー、渉外担当のエクスターナル リレーション オフィサー、コーディネーターの手配による展示設営設置スタッフの 3 名の方、プレスリリース英語翻訳者、プレスリリースフランス語翻訳者、レセプション日仏同時通訳者、レセプション受付係、展示・インタビュービデオカメラマン、レセプションカメラマン等展覧会実施には多くの方の協力がありました。

受付には女子美の英語タブロイド版大学案内、フランス語チラシを設置しました。女子美を紹介するコーナーも設置し、女子美術大学美術館グッズ、フランスにおいてもハローキティの人気が高いことからデザイナーの山口裕子さんが表紙の女子美広報誌、女子美付属制服着用の女子美リカちゃん、女子美×印傳屋オリジナル名刺入、小銭入れ等を展示しました。

展覧会での女子美術大学の英語版大学案内の上映にあたっては「国際芸術都市」のプロジェクト等機材の詳細が直前までわからなかつたり、フランスで発注したマルチメディア

プレイヤーが納品されず、日本より持参を余儀なくされたり、逆に日本より持参した RGB ケーブルに不具合が出てモニターが動作しなかったり、アクシデントが多発して国内とは勝手が違い、日本では当然のことでもフランスではそうとも言えず、海外展覧会ならではの困難さを感じましたが、最終的には無事上映することができました。

本展覧会では出展者は女子美パリ賞歴代受賞者で、欧州在住者 8 名は作品、日本等在住者は映像による出展となりました。

オープニングレセプションでは学術交流協定大学のパリ・セルジー国立高等美術学校、ポンピドゥー・センターを始め現地のギャラリー関係者等も多く集まりました。オープニングレセプションは女子美へ以前来校した経歴もあるシテ・アンテルナショナル・デ・ザールのベネディクト・アリオ理事長のご挨拶に始まり、終始賑やかな中で行われました。本学からは、理事長代理として顧問の教授と、日本側ディレクターの教授が出席し、それぞれ謝辞を申し上げました。2020 年 10 月には、杉並キャンパスで同記念展を開催する予定となっています。今回の展覧会実施は女子美卒業生の国内外での活躍と女子美術大学の存在をフランスにてアピールする良い機会となりました。

パリ出張のもう一つの目的は「国際芸術都市」のスタッフとのミーティングでした。渉外担当者とは以前より女子美パリ賞に関しやり取りはしていたものの、今回、初めて顔を合わせて情報交換することとなりました。ミーティングにはアーティスト・イン・レジデンスがご専門分野の日本側ディレクターの教授に同席をお願いしました。

ミーティングの内容の柱は下記でした。

- ・女子美術大学と「国際芸術都市」のこれまでの 20 年間のパートナーシップの歴史をまとめ、「国際芸術都市」へ提出すること。
- ・「国際芸術都市」への滞在者決定選考プロセスに今後、「国際芸術都市」が関与すること。
- ・自由書式の滞在計画等を見直し、新滞在プロジェクト書式を今後使用していくこと。
- ・住居兼アトリエのリノベーションについて希望に応じて申請していくこと。

これらのミーティング内容は女子美パリ賞を検討する会議である 100 周年記念大村文子基金褒章事業選考委員会等で検討することになります。

また、「国際芸術都市」内の施設見学を実施しました。「国際芸術都市」は地下鉄の Pont Marie(ポン・マリー)駅が最寄駅となります。正面玄関を入ると新館にレセプションがあり、その先の螺旋階段を降りるとコリドールと呼ばれる地下の廊下壁面を活かした展示スペースがあります。また、地下にはオーデトリアムという講演会を行うことができるスペースがあります。中庭には駐車場があり、訪れた際はファッショショーンを実施していました。中庭に面した場所にはカフェがありレジデンントの交流の場となっています。また、中庭の旧館側には版画工房が面しています。女子美のアトリエもこの旧館にあります。女子美のアトリエ内には制作・展示スペース(スポットライトあり)、ベッド、デスク、キッチン、冷蔵庫、シャワー、洗面台、トイレ、収納があります。また、通りを挟んだ所にアネックス館という建物もあり、他の美術大学のアトリエもあります。近隣には Hôtel de Ville(オтель・ドゥ

ヴィル)駅前に BHV(ベー・アッシュ・ヴェー)というデパートがありますが、日曜大工用品売り場の見学は、時間の都合上、かないませんでした。

### ミラノ「ブレラ国立美術学院」等情報交換と視察

ミラノでは学術交流協定先のブレラ国立美術学院を訪問しました。ブレラ国立美術学院で教鞭をとる教員の案内で建物1階にあるブレラ国立美術学院を見学し、絵画、版画、舞台装飾の教室を視察しました。この際、海外研究員としてブレラ国立美術学院に在籍した本学准教授の在籍中に制作されたフレスコ作品を見ることができました。19世紀画家Francesco Hayez(フランチェスコ アイエツ)が利用したスタジオもありました。また、2階にあるブレラ絵画館をブレラ国立美術学院の教員の解説により見学しました。同建物内にはBiblioteca Nazionale Braidense(ブライデンセ国立図書館)もあり莊厳な雰囲気でした。

女子美ミラノ賞受賞者として大学院生や卒業生を今後も派遣するにあたり、ブレラ国立美術学院の教員と情報交換を行いました。2019年女子美ミラノ賞受賞者派遣のファッショングデザインコースはブレラ地区より離れた Viale Marche(ヴィアレ マルケ)=マルケ通りの別館にあるとのことで、ファッショングデザインは定員制のため途中受け入れ不可ですが、今回限り特別に女子美ミラノ賞受賞者の受け入れをお願いできました。

また、日頃より招聘状の発行でお世話になっているブレラ国立美術学院のエラスムスの事務所を訪問しました。そこではインターナショナル リレーションズの方とご挨拶することができました。エラスムス・プラスはEUの奨学金で欧州に留学するプログラムですが、女子美の場合は学術交流協定をブレラ国立美術学院と交わしているため、協定の仕組みに従って学生、研究員の派遣受け入れを行う形になっていると思います。

こうした情報交換は募集要項を始め、今後の派遣に生かされるものとなります。

一方、2018年まで派遣者がミラノ滞在中に利用していたアパートも視察しました。物件へはトラムに乗ります。地下鉄駅から途中乗車することもできます。建物は分散しており、4軒の建物に数部屋ずつの貸室がありました。

安価な部屋はシングルベッドルーム、高めの部屋はツインベッドルームになっています。なお、2019年派遣ではこれらのアパートは利用せず、別の物件を利用することになりました。

### ベルリン「クンストラウム・クロイツベルク/ベタニエン」等情報交換と視察

#### Kunstraum Kreuzberg/Bethanien(クンストラウム・クロイツベルク/ベタニエン)訪問

ベルリンでは女子美ベルリン賞受賞者の派遣先、アーティスト・イン・レジデンスのクンストラウム・クロイツベルク/ベタニエンを訪問しました。ベタニエン訪問の際はベタニエンへ2019年7月より滞在の女子美ベルリン賞受賞者に同行をお願いしました。最寄り駅はKottbusser Tor(コトブサートーア)駅またはGörlitzer Bahnhof(ゲルリッツァー バーンホフ)駅です。Kottbusser Tor(コトブサートーア)駅前は落書きアートの建物があり、ディープ

な雰囲気のエリアですが、Sparkasse(シュパルカッセ)銀行やオーガニックスーパーの BIO CAMPANY(ビオ カンパニー)等暮らしに必要な店舗もあります。

駅から 600 メートル位歩くと Mariannenplatz(マリアンネ広場)に Kunst Quartier Bethanien(クンスト クアティア ベタニエン)という建物があります。1845 年に建築が着手されたレンガ作りの 19 世紀教会風建物で 1970 年まで病院として利用されていました。曲折を経て現在は芸術的な場として再利用されています。この歴史的建造物の外観にも落書きアートが施されています。

この建物の中にクンストラウム・クロイツベルク/ベタニエンがあります。ベタニエンはフリードリヒスハイム-クロイツベルク地区カウンシルの施設ということです。ベタニエン建物内はレジデンススタッフの案内で視察しました。部屋は制作・展示スペース、居住スペース、シャワー室、トイレ室に分かれており、その他同じフロアに別団体のギャラリーがあります。訪問時はアーティストが制作・展示スペースにてオープンスタジオを実施していました。制作・展示スペースにはスポットライトが常設されています。その他、施設内のギャラリー機材倉庫からインパクトドライバー、マルチメディアプレイヤー、ケーブル等様々なテクニカルな道具を借りることができます。大概のものはそこで借りることができますが、ベタニエンは予算を持っているため貸出備品に無いものは新しく頼むことになります。居住スペースを見せていただくと、テーブル、ベッド、棚、収納、流し、コンロ、レンジ、冷蔵庫等が常設されました。

さらに、1 階にあるクンストラウム・クロイツベルク/ベタニエン運営の美術館を見学しましたが、バンクシーの作品等が展示されていました。

1 階には Projektraum(プロジェクトルーム)という貸ギャラリーがありコンセプトを申請し、ベタニエン本館テナント協議会が貸し出しを決定するということですが、ベタニエンスタッフへお願ひすれば手続きはできるようです。プロジェクトルーム訪問時は Chronicle というグループ展が行われていて女子美の卒業生他日本人アーティストの展示が行われていました。

最後に建物 1 階の 3schwestern(3sisters)というカフェでベタニエンスタッフと情報交換を行い、ベタニエンのホームページへの女子美の情報掲載の段取りについてディスカッションしました。また、プロジェクトルームは滞在中に利用することは難しく、日本帰国後準備して再度ベルリンを訪れて展示を実施する人が多いとのことでした。プロジェクトルームを利用した将来の歴代女子美ベルリン賞受賞者の記念展等にも話が及び大学からの依頼であれば施設の貸し出しも許可は得られやすいのではとのお話をしました。

その他 Kunst Quartier Bethanien(クンスト クアティア ベタニエン)の建物内には Kulturwerk des BBK ベルリン版画工房、Kulturwerk des BBK ベルリンメディアワークショップ、フリードリヒスハイム・クロイツベルク音楽学校、作家テオドール フォンターネが薬剤師時代に働いていた歴史的薬局、ベタニエン舞台芸術、連邦劇場協会、ドイツダンス傘下組織、演劇協会、ベルリンフリー・パフォーミング・アーツ登録社団、マイムセンターべ

ルリン、ダンスコングレス等があります。

### Markthalle(マルクトハレ)=市場、画材・文房具屋の Modulor(モドゥラー)見学

次にベタニエン近隣の Markthalle(マルクトハレ)=市場と、画材・文房具屋のモドゥラーを女子美卒業生の案内で視察しました。ベタニエンより徒歩で行ける市場の中は生鮮食料品に加え、日本酒の利き酒販売コーナーまであり、展覧会のオープニングセッションの際のアルコールにお勧めとのことです。市場内にはディスカウントストアの ALDI(アルディ)もありました。画材・文房具屋のモドゥラーはウーバーン8で Kottbusser Tor(コトブサートア)駅の隣駅の Moritzplatz(モーリッツプラツ)駅を降りると駅前にあります。ペン・筆・紙等豊富な品揃えです。

### アーティスト・イン・レジデンスの GLOGAUAIR(グローガウエア)見学

その後、女子美卒業生の案内でオープンスタジオを実施していたアーティスト・イン・レジデンスの GLOGAUAIR(グローガウエア)( Glogauer Str. 16, Berlin)を訪問しました。グローガウエアはクンストラウム・クロイツベルク/ベタニエンとコトブサートア駅を挟んで反対側のやはりクロイツベルク地区にあります。歴史的な3階建の建物で1階にプロジェクトスペース、2・3階にスタジオがありました。2階5人と3階5人の計10人のレジデント アーティストが各自のスタジオを公開して作品を展示していました。その内の2人は日本人アーティストでした。

### スタジオの KREATIVSTADT WEISENSEE(クリエイティブシュタット ヴァイセンゼー)European creative city 見学

女子美卒業生の案内でスタジオの KREATIVSTADT WEISENSEE(クリエイティブシュタット ヴァイセンゼー) European creative city 見学しました。クリエイティブシュタット ヴァイセンゼーはベルリン中心部から 6 キロ程北東のヴァイサー湖という湖を中心とするエリアにあり、旧市役所の建物を活かしたアーティストのためのスタジオハウスです。スタジオでありレジデンスではないため、居住というよりは制作中心の施設となっています。

### シュプレー川ボートツアーとレストランにて情報交換会

ベルリン在住の女子美卒業生の案内でベルリンの壁で有名なイーストサイドギャラリーの近くからボートに乗船し船上及び下船後のレストランにて卒業生との情報交換を行いました。ベルリン自由大学は神戸大学と学科対学科の部局間学術交流協定を交わしているとのことです。その後大学対大学の学術交流協定に昇華しました。

また、ベルリン芸術大学は女子美との間に現在交流協定はないですが、女子美の学科とベルリン芸術大学の学科間での提携ということも考えられるのではとのご意見をいただき、

ベルリン芸大には英語の授業もあるし、提携の話をすすめるようでしたらお手伝いすることもできますとの頼もしいお言葉も卒業生よりいただきました。

ドイツのビザ事情については仕事探しビザ、ワーキングホリデイビザ、アーティストビザ等あるそうです。また、仕事探しには求人サイト **indeed** のドイツ版もあるとのことで、その他、美術系応募サイトがあるとのことです。

船上ではシュプレー川から岸辺越しにベルリン大聖堂や、ニコライ教会を中心とした中世らしさの残る界隈のニコライ地区を通過しながら、陶磁器の展示で有名なシャルロッテンブルク宮殿の近くで下船するまで、途中、旧東ドイツ政府により爆破されたプロイセン王宮の跡地にフンボルトフォーラムを建設中でフンボルトフォーラムにはアジア美術館、民族学博物館が設置されるという興味深い話などをしていただきました。ちなみにベルリンは湿地という言葉からきていて、「ベルリン」と「熊」のドイツ語での発音が似ていることから、ベルリンの紋章は熊となっているとのことです。

ベタニエンに関係する情報としては特に下記を伺いました。1階にあるギャラリー「クンストラウム・クロイツベルク/ベタニエン」が2階のレジデンス事業を運営しているということです。

また、クンスト クアティア ベタニエンの同じ建物内に **Kulturwerk des BBK berlin** という団体が運営している工房があります。これらの工房は昨日見学した時はお休みで見学できませんでしたのでその情報は貴重なものとなりました。

**Kulturwerk des BBK** ベルリン版画工房 Print Studio(ベタニエン内2階)にはデジタルプリント、エッティング、リソグラフィー、フォトグラフィー等の設備があります。利用には1ヶ月位前に予約が必要となります。また、このスタジオで紙の購入もできます。

**Kulturwerk des BBK** ベルリンメディアワークショップ Media Studio(ベタニエン内)には映像のためのデジタルワークスペースがあります。

**Kulturwerk des BBK Sculpture Studio**(電車で30分位のベルリン市内)には メタルスタジオ、ストーンスタジオ、ウッドスタジオ、セラミックスタジオがあり 60ユーロ/週で利用できます。一般にドイツではマイセンと共にベルリン王立磁器製陶所が有名で現代に伝統が受け継がれているということです。

これら工房の予約は英語可能でアーティスト同士のコミュニケーションも英語で可能とのことですが3ヶ月先まで予約がいっぱいのこともあり、早めの予約が必要とのことです。

ベタニエン最寄り駅コトブサートーア駅の隣にある駅では黒人が薬を売っていて話しかけてきたり、断ると暴力を振るったりという事例もあるそうです。また、スリもいるということで安全には気を付けてほしいとのアドバイスもありました。

## 6 問題点・今後に向けて

本出張において各国のレジデンス、学術交流協定大学及びその周辺地域を見学し、現地在住のスタッフ・教員の方々とお話しできたことは、今後の各賞派遣事業において大変有益な

経験となりました。現地にサテライトの無い本学にとっては、実際に所管部署職員が現地を訪問することは非常に貴重な機会であり、現地での問題点や多くの有用な情報を実体験として得ることができました。

同様に、各国で現地の卒業生と面会し、在学当時や現在の生活についてお話しする中で、今後の派遣事業への協力にも好意的な声を多くいただきました。また、派遣事業において普段からお世話になっているレジデンススタッフ・教員などの現地の関係者の方々へご挨拶でき、情報交換や今後に向けての協力体制の確認を行えたことで、今後の事業を続けるうえで不可欠なコネクションの維持、さらなる強化へと繋げることができたと考えています。こうした全体の成果を踏まえた上で、本出張で見えてきた各国での課題や今後について以下の通り述べたいと思います。

まず、フランス・イタリア・ドイツの3カ国に共通して言えるのは語学力の重要性でした。現地での作家活動やミラノのように授業を受けるためには、英語だけでなくやはり各国公用語の習得が望ましいと現地卒業生や先生方も言われていました。

美術というある種非言語的な領域ではあるものの、現地での活動を充実したものとするためには語学力は非常に重要であり、今後も募集・選考段階において注視していく必要があると感じました。同時に、派遣生活のサポートをする、あるいは今回のように現地のスタッフ・教員の方と直接情報交換をする上で、送り出す職員側も常に語学力を磨いていく、あるいは国際関係に強い部署との学内連携をさらに強化していく必要があると考えます。

ドイツにおいては今後、女子美ベルリン賞の派遣実績を重ね、相当数の女子美卒業生のベルリン滞在経験者が生じてきた際に、パリでの展覧会同様、ドイツでも歴代の女子美ベルリン賞受賞者の展覧会ができれば女子美術大学の名をドイツにおいてもアピールすることにも繋がり、機会があればベルリンでの展覧会実施を検討できれば素晴らしいのではと思います。

以上

## FUTURE MYTHOLOGY DIARIES

—女子美術大学 × Cité Internationale des Arts 20周年記念展—

パリ シテ・デザールにて



ギャラリーに向かう廊下のポスター



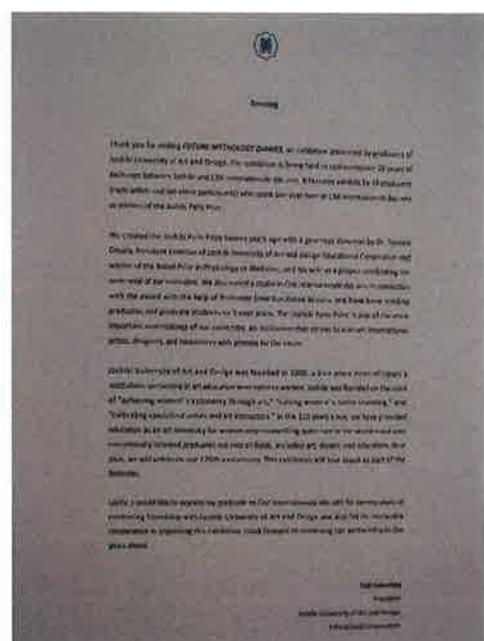
シテ・デザールのフロントに置かれたチラシ



外部に向けたチラシ



入口看板



福下雄二理事長挨拶



謝辞



英語版タブロイド



受付



女子美リカちゃん 印傳屋名刺入 広報誌 展示



女子美術館グッズ展示



英語版女子美紹介上映



日本等在住女子美パリ賞受賞者の作品上映



保科晶子氏展示



新津亜土華氏展示



井上織衣氏展示



角谷沙奈美氏展示



高木彩氏展示



野口香子氏展示



井上真由美氏展示



松山聖子氏展示

Cité internationale des arts シテ アンテルナショナル デ ザール



シテデザール最寄駅 ポン マリー  
白い建物がシテデザール



正面玄関



正面玄関よりギャラリー入口への廊下



レセプション



レセプションよりコリドール等への  
螺旋階段及び正面黒扉は事務所入口



コリドールと呼ばれる地下展示スペース



オーデトリアム入口（地下）



中庭駐車場でファッションショー実施中



中庭駐車場に面したカフェ



中庭駐車場より新館



中庭駐車場に面した版画工房



版画工房



版画工房



中庭駐車場よりギャラリー搬入口



アネックス館



近隣の百貨店 BHV



Accademia di Belle Arti di Brera ブレラ国立美術学院



ブレラ通り北側より外観



玄関



ブレラ通り南側より外観



玄関より正面



玄関より左手 2階はブレラ絵画館



玄関より右手



Biblioteca Nazionale Braida ブレラ国立図書館 美術学院と同じ建物内



最寄駅 Kottbusser Tor コトブサー トーア駅



駅名の向こう側の建物には落書きアート



コトブサー トーア駅前 Sparkasse 銀行  
シュパルカッセ銀行



BIO CAMPANY ビオ カンパニー  
コトブサー トーア駅付近のオーガニックスーパー



もう一つの最寄駅 Görlitzer Bahnhof ゲルリッツァー バーンホフ駅





Kunst Quartier Bethanien クンスト クアティア ベタニエン外観  
この建物の中にクンストラウム クロイツベルク/ベタニエンがある。



ベタニエンを背にした眺め



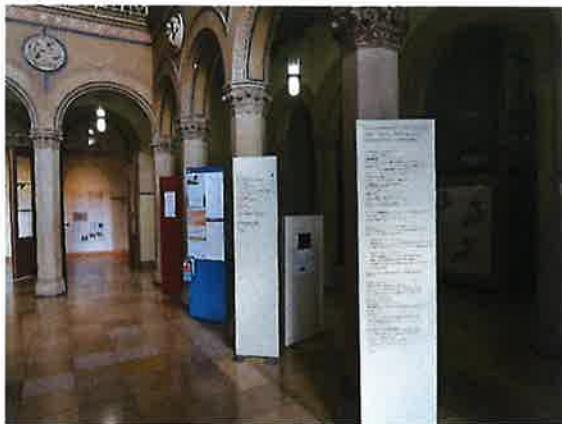
クンスト クアティア ベタニエン外観



外観の落書きアート



クンスト クアティア ベタニエン玄関



玄関ロビー



1階から上がるとすぐ2階にドア



オープنسタジオ実施中



廊下側より正面 中央に柱2本



窓側より廊下側の様子



1階 クンストラウム クロイツベルク/ベタニエン  
運営の美術館



Projektraum プロジェクトルーム 1階 貸ギャラリー ベタニエン本館テナント評議会が貸し出しを決定



2階 印刷ワークショップ及びマルチメディアワークショップ BBK という団体が運営



1階 3schwestern カフェ



Markthalle マルクトハレ 市場  
ベタニエン近隣



Markthalle マルクトハレ 市場



ALDI アルディ 市場内のディスカウントストア



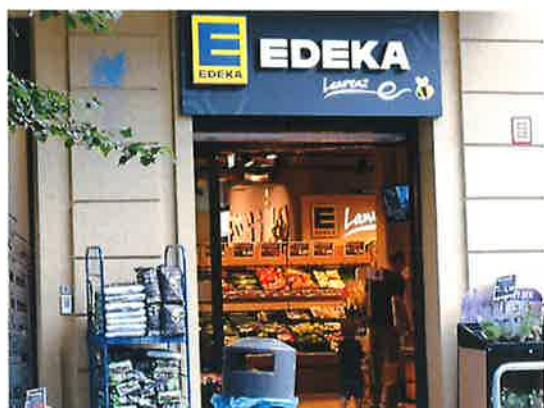
Modulor モデュラー 文房具・画材屋



Moritzplatz モーリッツプラツ駅  
文房具屋モデュラーの最寄り駅  
ウバーン 8 でコトブサー トーア駅の隣駅



LIDL リドル  
ディスカウントスーパー



EDEKA エデカ  
ディスカウントスーパー



PENNY ペニー  
ディスカウントスーパー



GLOGAUAIR グロガウエア 表札



GLOGAUAIR グロガウエア 外観



スタジオ



Kitchen キッチン



GLOGAUAIR グロガウエア 外観

ベルリンスタジオ Kreativstadt Weißensee European creative city  
クリエイティブシュタット ヴァイセンゼー ヨーロピアン クリエイティブ シティ



Kreativstadt Weißensee  
European creative city  
外観



廊下



スタジオ内部



スタジオ内部